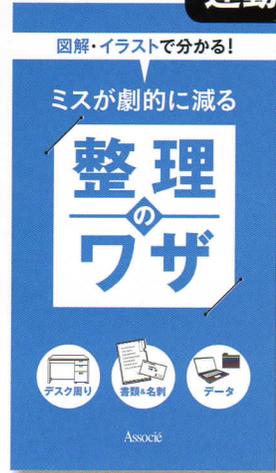


ミスが「99%なくなる」仕事術

特集  
連動付録

日経ビジネス [アソシエ] 2015  
**Associe** 5  
MAY  
特別  
定価 700 YEN

2015年4月10日発行・発売 (毎月1回10日発行・発売) 第14巻第6号通巻287号 2002年10月3日第三種郵便物認可



結果を出す人は「整理上手」!  
デスク周り・書類・データ…

新年度の評価・信頼がアップする!

# ミスが99%なくなる 仕事術

ノート・メモの書き方  
整理術、段取り法…

ミス発生時の「リカバリー法」も教えます!

「ミスしない人」の習慣

孫正義(ソフトバンク社長)、吉越浩一郎(トリンプ元社長)

ミスをする人 vs しない人 12の違い

無印良品のミス防止“生マニュアル”を大公開!

ドラッカー流「ミスがなくなる 心の整え方」

簡単テクニックで“ミスゼロ”! エクセル徹底活用法

時間管理術・上司攻略法・投信積み立て…

ピケティに学ぶ

“格差社会 生き残り術”

編集長インタビュー

永守重信

日本電産 会長兼社長 CEO

# スキル4 資産運用力 を身につける



## 時間を味方につけて「資産を増やす」仕組みを作る

ピケティが提唱する「 $r > v < g$ 」の不等式は、「資本を持つ人が所得を増やしていくペースは、労働による所得の伸びを常に上回る」ことを意味する。つまり、格差社会を勝ち抜くためには、会社に勤めるビジネスパーソンであっても、給与収入だけに頼るのでは不十分。「資産運用力」を磨き、個人資産を着実に増やしていくことが大切になってくる。

「資産運用」というと、資産家や、多額の退職金を手にした年配者が行うものであり、「現役世代のビジネスパーソンは、 $\mu$ 財テクをするより、目の前の仕事に邁進すべき」と考えられがちだ。これは高度成長期に作られた概念で、その頃の日本は「給料は右肩上がり。現役引退後には確実に豊富な年金がもらえる。だから、お金は定期預金に預けるだけで十分」という恵まれた状況だった。しかし、今はその逆。歴史的な低金利が続く、預金だけで資産を増やすことはまず不可能だ。引退後も、年金だけでは生活できそうもない。過去のイメージは今すぐ断ち切り、本腰を入れて資産運用に取り組んでいこう。

マネー戦略プロデューサーの長

岐隆弘さんによると、「資産運用をするうえで大事なのは、 $\mu$ 元手、 $\nu$ よりも $\mu$ 時間」だという。「人生80年とすると、60歳なら残り20年。ですが、30歳ならまだ50年もあります。資産運用は、時間が長ければ長いほど着実にお金を増やすことができるので、実は、既にお金を持っている年配世代より、元手は少なくても、残り時間の長い現役世代の方が有利です」

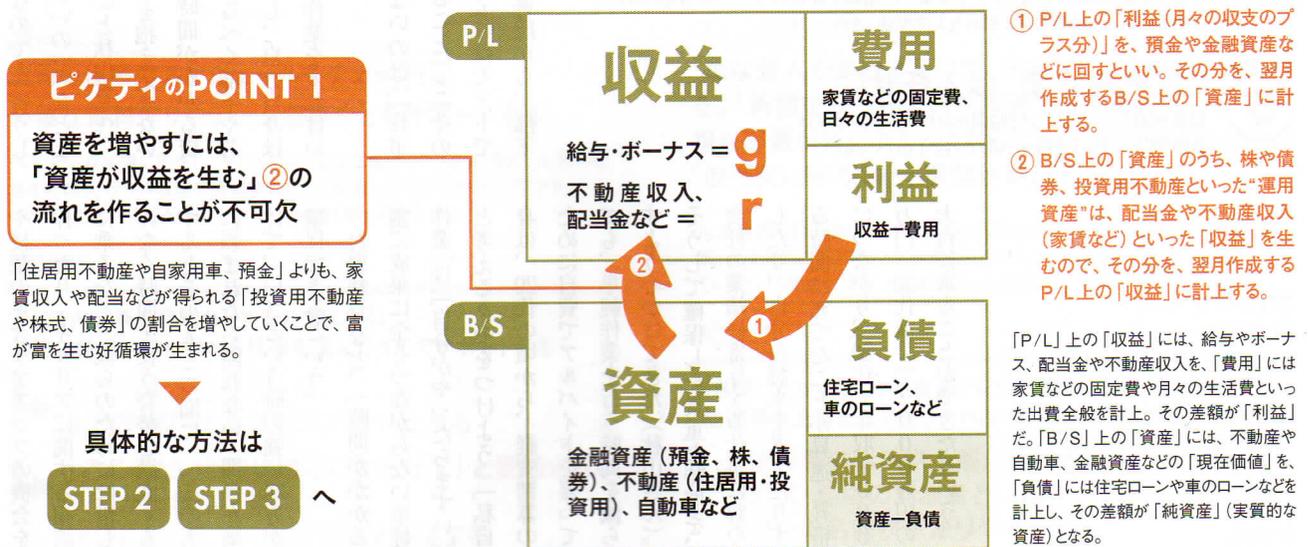
(長岐さん)

時間を味方につけて資産を着実に増やすために、長岐さんが提案する方法は、下の3つのSTEP。まず「損益計算書と貸借対照表を作って自分の資産を正しく把握(STEP1)具体的な方法は下記」したうえで、 $\mu$ 稼げる $\nu$ 時期が異なる「時間分散投資(STEP2)次ページ」と「不動産投資(STEP3)108ページ」を組み合わせる、というものだ。

「資産運用は、単に資産を増やすだけでなく、経済の流れを肌で学べる絶好の機会でもある」と、事業開発コンサルタントの秋山ゆかりさん(前ページ)も言う。自分の「知的資産」を増やすという意味でも、今すぐ始めるメリットは大きいだろう。

### 資産運用STEP 1 自分のP/LとB/Sを作り、毎月更新する

「貯蓄額は?」「今月はどれくらい収入があった?」と聞かれて、即答できない人は要注意。自分の収入が月々いくらで、どれだけの出費があり、資産をいくら保有しているのかを正確に把握するために、まずはエクセルで「P/L」(Profit and Loss Statement=損益計算書)と「B/S」(Balance Sheet=貸借対照表)の2つを作成し、毎月更新しよう。この2つは企業で作られる決算書だが、個人も同じ手法を使えば、お金の流れが分かりやすくなり、月々の収支と資産の状況を正しく把握できるようになる。



## 資産運用STEP 2

# 時間が経つほど資産が増える 「時間分散投資」≒「ドルコスト平均法投資」を始める

資産運用では、資金を国内外の株や債券、外貨預金、不動産などに少しずつ分散して投資する人が多い。資産を一度に失うリスクを避けるために「分散投資」するわけだが、実はこの方法は、リスク対策として万全ではない。リーマンショックなどの世界的金融危機が起こると、資金をどれだけ分散して投資しても、一斉に暴落してしまう場合があるからだ。そこで目を向けたいのが、「投資対象」ではなく「時間」を分散させる「ドルコスト平均法投資」。「中でも「投信積み立て」が手軽でお薦め」（長岐さん）。

## △ 通常の分散投資とは？

資金を国内外の様々な株式や債券、不動産などに分けて投資すること。

### 100万円を6種類の商品に分けて投資する場合



1つの投資対象に資金を集中させるより、様々な対象に分散して投資した方がリスクは低いが、リーマンショックのように、世界中のあらゆる金融商品が一斉に暴落する場合もあるため、リスク分散としては万全ではない。

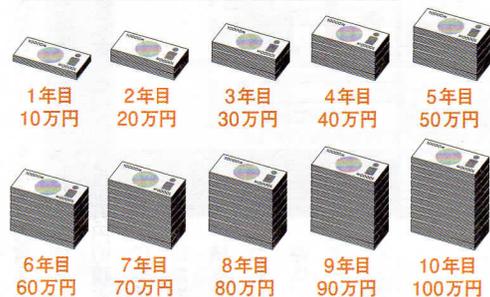
## ○ 時間分散投資とは？

資金を長期間に分けて投資すること。

時間分散投資の代表格である「ドルコスト平均法投資」は、「長期間続けることを前提に、毎月一定額を積み立てる」投資方法。

「投信積み立て」や「外貨預金積み立て」などがある。

### 100万円を10年間に分けて投資する場合



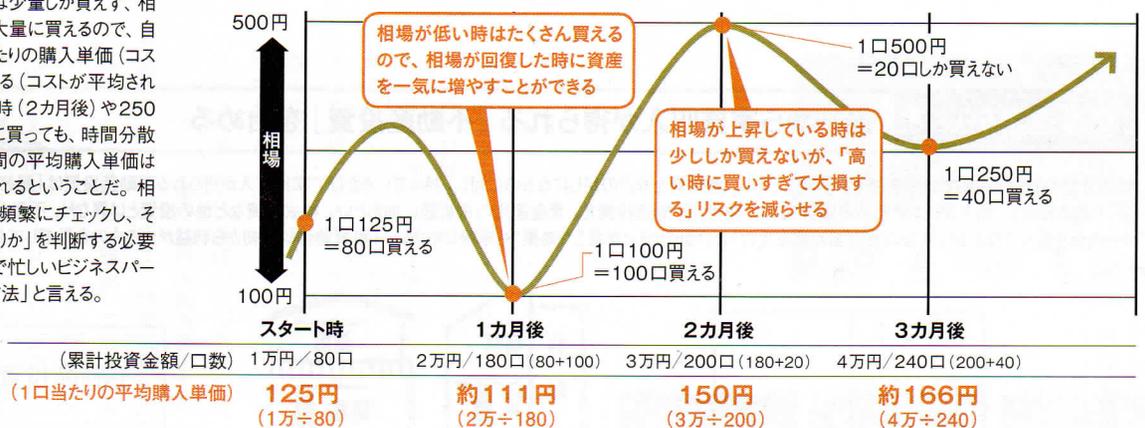
投資商品は、相場が上がったり下がったりと変動する。例えば、相場の高い時期にまとめて買えば大損になる。しかし長期間にわたって、少しずつ投資していく「時間分散投資」なら、こうした相場の変動リスクを最小限に抑える効果がある（詳しくは下参照）。

## ドルコスト平均法投資のメリット①

### 相場が上下する影響を受けにくい（相場に一喜一憂せずに済む）

相場が高い時期には少量しか買えず、相場が低い時期には大量に買えるので、自動的に商品1口当たりの購入単価（コスト）のブレが小さくなる（コストが平均される）。1口500円の時（2カ月後）や250円の時（3カ月後）に買っても、時間分散効果により、3カ月間の平均購入単価は約166円に抑えられるということだ。相場の上がり下がり頻りにチェックし、その都度、「買いか売りか」を判断する必要もないので、「仕事で忙しいビジネスパーソンに向けた投資方法」と言える。

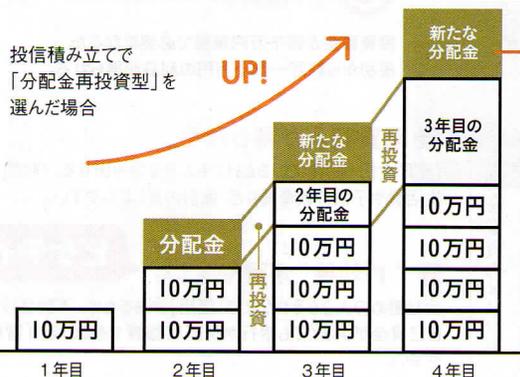
「毎月1万円」を同じ投資信託に「積み立て」する場合



## ドルコスト平均法投資のメリット②

### 「複利効果」で、時間が経つほど利幅が拡大

「投信積み立て」の場合、その投資信託の決算期に配当金が出たら、2つの受け取り方を選ぶのが基本。1つが配当金をその都度、現金で受け取る方法（＝分配型）で、もう1つが配当金を、投資信託の購入原資に組み入れる方法（＝「分配金再投資型」）だ。この「分配金再投資型」を選べば、複利が連鎖する（利益がさらなる利益を産む）構造（＝複利効果）となり、時間が経てば経つほど資産の増加幅が拡大する。



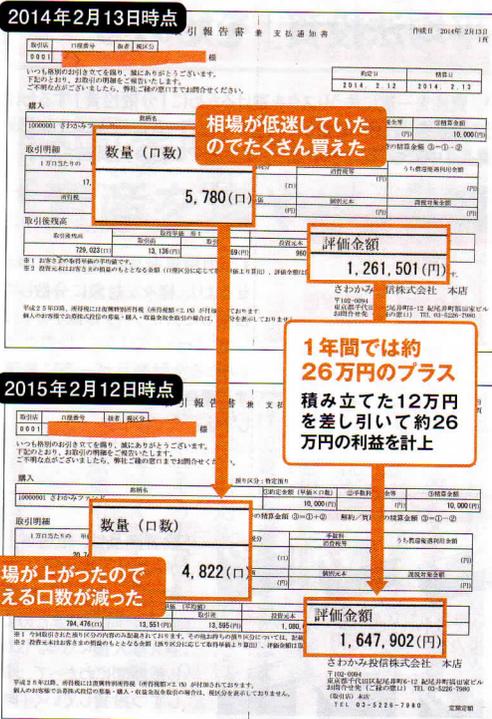
## ピケティのPOINT 2

「富が富を生むペース」が「労働による所得の伸びを上回る」のは、まさにこの「複利効果」によるもの。

# 相場が悪い時期もうれしい投資 10年で56万円の利益が得られた

(東川瑞希さん、40歳)

## 毎月1万円の投信積み立ての結果は…?



約10年前に、月1万円ずつ、ドルコスト平均法投資の一種「投信積み立て」をスタートさせました。左に示したのは、投信信託の運営会社から毎月送られてくる「取引報告書」。この報告書で、「投資元本(これまで購入に費やした総額)」と「評価金額(現在保有する投資信託全口分の時価総額)」が確認できるのですが、リーマンショックで相場が大幅に下がった時

期は、「評価金額」が「投資元本」を大幅に下回り、しばらく落ち込みました。「全部売却してしまおうか」とも考えましたが、「とりあえず、もう少し様子を見よう」と続けてみることにすると、徐々に相場が上がり始めました。定期積み立ての性質として「相場の低迷期に多くの口数を購入できていた」こともあり、相場の回復とともに「評価金額」が「投資元本」を

上回り、どんどん利益が出るようになりしました。最近の取引報告書を見ると、約108万円の「投資元本」に対して、「評価金額」が約164万円と、約10年間で56万円も利益を得ることができた計算になります。

約10年間、「投信積み立て」をやってみて、「時間を分散する効果」を身をもって実感しました。相場は上げ下げがあるものですが、長期投資を前提とするドルコスト平均法投資なら、相場が悪くなってもいちいち落ち込まずに済む。むしろ悪い時期は「投資信託をたくさん買えるチャンス」と、うれしい気持ちになります。

上の2枚は、2014年2月と今年2月の「取引報告書」。毎月1万円、様々な日本株に投資する「さわかみファンド」に積み立てた結果、約10年間で56万円、この1年間で26万円の含み利益を得ることができた計算だ。

積み立てを続けていくつもり。それで得た利益は、将来、老後資金の一部として活用したいと考えています。

月1万円の積み立てなら、家計にもそれほど負担でないため、このまま投信

## 資産運用STEP 3 最初から家賃収入が得られる「不動産投資」を始める

時間分散投資が「長期で資産を増やす投資」であり、老後資金などの足しになるのに対し、持っているだけで家賃収入が得られる不動産投資は「最初から稼げる、家計の足しになる投資」。給与アップが見込みにくいこのご時世、不動産投資を、資産運用の選択肢に加えたい。株式投資など他の投資とは異なり、不動産投資は唯一、銀行から資金を借りて行える投資なので、「富が富を生む」というピケティが言う「r効果」も享受しやすい。「投資物件は最初から利益が出るものを厳選して」(長岐さん)。

不動産投資の主な種類

**ワンルームマンション投資 (1室買い)**

投資資金1000万円程度から始められるが、最初の数年は赤字になりやすい

**アパート・マンション投資 (1棟買い)**

投資資金が数千円規模で必要になるが、最初から数万~数十万円の利益が得られる。

**不動産投資信託 (リート)**

数万円と低額から始められ、家賃収入に相当する「配当収入」が得られる。

**長岐隆弘さん**  
Takahiro Nagaki  
アセットライフマネジメント代表。不動産販売会社、メガバンクなどを経て、マネー戦略プロデューサーとして独立。著書に「銀行員だけが知っている お金を増やすしくみ」(集英社)ほか。



不動産投資のメリット

- 家賃収入が得られる  
(売買せず)保有しているだけでもお金を生み出せる。(時間分散投資と違い)最初から稼げるので、生活費や子供の教育費など、家計の足しにしやすい。
- “r効果”が得やすい!  
会社勤めの人ならそれだけで「信用」があるため、不動産投資の資金を銀行から借りやすい。自己資金が少なくても銀行から借りて投資できるので、「富が富を生む」、ピケティの言う“r”の効果を受取りやすい。

### ピケティのPOINT 3